

26日(土) 「島じまん」のオープニングを見て、新島ブーイングの手伝いをし、国会議員や都議会議員と名刺交

●前田 卓秀  
25日(金) 午前中は下條村の施設を見学し、午後からは飯田市南信濃振興公社の温泉を利用したフグの養殖を視察。すべての日程を終え7時半過ぎに東京着、解散。

24日(木) 村議会の視察研修。朝8時26分に島しょ会館前を貸切バスにて出発。長野県・喬木(たかぎ)村をめざす。  
\* \* \*  
27日(日) 今日「島じまん」新島ブーイングの手伝いをし、他の島のブーイングを見学。午後6時終了。夜の大型船で帰島。

スにて東京都町村議会議員講演会。テーマは「災害に強い地域づくり」。この後5時半から多摩・島しょ議員の懇親会。



28日(月)～31日(木) 新島の波情報をSNSに投稿。さらに防災新島や観光案内なども共有して投稿。  
午後から美容室の仕事。いつもの新島の生活にもなる。

27日(日) 今日「島じまん」新島ブーイングの手伝いをし、他の島のブーイングを見学。午後6時終了。夜の大型船で帰島。



換及び意見交換。

アイ 議長の目ランド アイ

小笠原諸島返還50周年記念式典に参加して

世界自然遺産登録！環境に配慮した村内整備！若者の多い活気に満ちた島々！

(議長 前田 邦弘)



世界自然遺産登録とその保存

1968年に小笠原諸島がアメリカの統治下から日本に返還されて50年経ち、日本で一番若くて活気のある島々である。

2011年外来種対策や保護担保措置などの課題をクリアして世界自然遺産に登録された。この後も外来種の新たな島への侵入が確認され、その対策は継続的な課題となっている。島に下船の際には靴などの裏を消毒し、付着物の上陸防止を行い気を配っている。特に近くの南島に行くのにも靴の裏を塩水で洗うな

ど世界遺産の保持に力を注いでいる。返還直後は自然保護よりも復興事業を優先する風潮があったそうだが、現在は環境問題に対する島の人々の意識は確実に高まっているという。

活況を呈する観光業

現在、観光客は年間3万人に達する勢いで、ユネスコ自然遺産の登録と新しいおがさわら丸による快適な船旅が約束されたことが一因となって島全体が活気にあふれているように思えた。新島で言えば昭和50年代半ばのあの雰囲気似た感じをつけた。

行政的にも小笠原は小笠原諸島復興特別措置法により村内整備は伊豆諸島の島々とは違い、環境に配慮された区画整備が施され、メインストリー

トには電柱が1本もな  
 繁華街、住宅街、公共  
 施設街等環境に配慮さ  
 れた町並みになってい  
 る。もちろん、伊豆諸  
 島の多くの町村が町村  
 施行130年以上とい  
 う歴史に比べれば、50  
 年という若い小笠原と  
 いうこともあるが、自  
 然環境に配慮した町並



父島の生協前の通り。祝賀パレードに出発する前のざわめき。

午前中は父島現地調  
 査を行い、午後からは  
 小笠原諸島返還50周年  
 記念式典に参加。  
 2400人の島な  
 のにどこからこれだけ

**東京からの往還日記**  
 6月28日  
 東京竹芝桟橋を午前  
 11時に出港し、船内で  
 昼食・夕食・船中泊。  
 6月29日  
 朝食後午前11時に父  
 島一見港に到着下船。  
 快適な船旅とはい  
 ながら24時間の船旅は  
 長い。到着後、早速島  
 内視察や南島等の海上  
 調査。父島泊。  
 6月30日

みの美観や亜熱帯植物  
 の醸し出す美しさはほ  
 かの島とは違ってい  
 る。自然志向の強い観  
 光客がまだまだ増えて  
 いくのではと感じた。



同じく大神山公園の記念式典。森下村長、小池都知事、石井国交大臣等  
 つぎつぎと登壇。

の人が集まったのかと  
 思うほど、メインスト  
 リートは人で埋まって  
 いた。小笠原のパワー  
 に圧倒された記念行事  
 だった。

特に子供の多さに圧  
 倒されたが、小学生が  
 160人とか。24時間  
 の船旅、他に交通の手  
 段のない島なのに、な  
 ぜ多くの若者が魅せら

れるのか不思議な思いに駆られた。

7月1日

7時30分に父島二見港を出港。9時30分母島沖港に到着。11時から母島の記念式典。

18時 はは丸(い)

ナイト2018に参加(母島泊)。

7月2日

10時 東京都町村長・町村議会議長合同会議が開催され、小笠原の空港問題や自然環境等、意見交換。

12時30分母島沖港を出港。

14時20分父島二見港に入港。

15時30分小笠原丸に乗り換え、盛大な見送りを受け二見港を出港。

7月3日

15時30分東京竹芝に到着。5泊6日の長い船旅であった。

### 小笠原の訪問を振り返って

現状の小笠原は元気で活力に満ちているが、昭和50年代の離島ブームで燃え上がった伊豆諸島のように、一過性のブームにならないことを願うのみ。特別な環境や自然遺産を大切に育て、緊張感を持続し、地道な努力が求められてくる。

今回の出張は東京都13町村の町村長・議長と合同であったこともあり、13町村長と議長との小笠原返還50周年記念式典参加を通じ、よりコミュニケーションを深めることができ大変有意義な旅であった。お世話していただいた関係各位に心から感謝を申し上げます。

## 長野県南部の先進地を視察！

### 議会改革・移住促進・産業振興をさぐる

島しょ会館から貸し切りバスに乗って、5月24日から1泊2日で長野県先進地視察に出発した。

今回のテーマは『議会改革』である。ここ一年、全員協議会・総務常任委員会の中でも意見交換されてきたテーマである。

選定のきっかけは、議長が配った議会改革先進事例の新聞特集からである。

何力所か打診した結果、『夜間休日議会』を開催している長野県の喬木(たかぎ)村を選ぶことになった。

喬木村議会ウェブサイトに掲載されている議会改革レポートを事

湖から南下する形で喬木村に到着した。

今号には喬木村議会訪問(12・13ページ)

前に読み、先方に事前質問を連絡した上で当日を迎えた。

道中、2027年開通予定のリニア中央新幹線の高架を横目に見ながら長野県を北上し、休憩に寄った諏訪

。事業を掲載予定である。(文章 木村諭史)



長野県 視察先の地図